

「終活支援事業について」神奈川県横須賀市視察(10/15)

牛久市の課題

牛久市も一人暮らしの高齢者が増加している。安心して最期を迎えることができるよう市としてどのような支援ができるのか。

横須賀市の取り組み

身寄りのない低所得者の方が葬儀社と生前契約を結び、本人の信教に沿った葬儀・納骨をしてもらうことができる「エンディングサポート事業」と、大切な終活情報を市に登録してもらい、万が一の時に必要な情報を相手先に教える「わたしの終活登録事業」がある。



「庁舎建設事業について」

静岡県焼津市視察(10/30)

牛久市の課題

昭和49年に建築された市役所庁舎は、専門家による調査でも劣化が指摘されており、今後の庁舎の在り方について検討が必要となっている。

焼津市の取り組み

建設事業費は、約106億円で財源内訳は、庁舎建設基金約28億円、起債77億円、一般財源81万円。起債は合併推進債で事業費に対し充当率90%、元利償還額の40%が交付税措置される有利なものを活用。高校生を含む市民委員によりワークショップを開催し、市民の意見を取り入れた使いやすい庁舎を実現した。



議会 TOPICS

「ごみ処理の集約化と広域化について」静岡県伊豆市視察(10/9)

牛久市の課題

牛久クリーンセンターは1999年度より稼働。2019年に15年の延命工事を行っている。国は安定的で効率的なごみ処理体制の構築を推進、県は施設の集約化例を示している。老朽化している施設を単独で更新するのか、または広域化するのか、判断が必要になる。

伊豆市の取り組み

2市による広域化を実施。施設の維持管理の経費の削減、運転管理面での効率化が図られているが、集約化による2市のごみ処理手数料の差異やごみ搬入中継施設整備の必要性などの課題がある。



「愛タク(乗合タクシー)について」群馬県富岡市視察(10/20)

牛久市の課題

牛久市には「かっぱ号」「うしタク」「ライドシェア」の公共交通があるが、路線や時間、使い勝手など市民から多くの意見がある。ニーズと現状の乖離をどう解消していくのか。

富岡市の取り組み

デマンド型タクシー。運賃は、市内在住、在学・在勤者は1乗車100円。7人乗りミニバンで平日は6台、土日祝日は4台で365日運行。主要な公共施設、スーパー、医療機関など463か所の乗降場所がある。電話、LINE、スマホから予約。スマホ予約に移行してもらうため、高齢者向けに無料スマホ教室を開催。



編集後記

今定例会に先立つ11月14日、議員全員協議会が開催され、執行部より市出資法人の今後の方向性が示されました。その内、耕作放棄地の解消を主目的に設立された牛久グリーンファームに関して今後の諸情勢から判断しても黒字化が見込めないの、一年後を目途に農業部門から撤退しBDF製造のみの会社として存続させたいとの説明がなされました。一方、令和6年のデータによれば市内の1170haの畑の内、289haが耕作放棄地であり、グリーンファームはその内の26haを借り受け耕作して来た訳であります。同社の農業部門からの撤退により当該26haの農地を含めて牛久市の今後の耕作放棄地の解消法を如何に確立するのが大きな課題となることから、市議会としても注視して参りたいと考えています。(石原)

広報常任委員会

委員長 水梨 伸晃
副委員長 伊藤 知子
委員 石原 幸雄
大森 和夫
塚原 正彦
出澤 大
加藤 政之